

チューリップの12～1月出し及び2～3月出し栽培のための球根の低温処理法							
<p>[要約] チューリップを加温栽培で12～1月出しする場合は、予冷処理を14℃で1週間行った後に、2.5℃で6～7週間本冷処理する。2～3月出し栽培では、本冷処理のみとし晩生種は2.5℃で7～8週間、中生種は5℃で8週間行くと切花品質が向上する。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・花き花木研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	加工利用	対 象	花き類	分 類	普及

〔背景・ねらい〕

最近のチューリップは、八重咲きや百合咲きの花卉をもつものや一つの茎に3～5花つける枝咲き性のものが注目されている。また、花色も従来の赤色系の他にパステルカラーやオレンジ色のものに人気が出るなど品種が多様化している。特に、12～3月出し促成栽培では、需要が安定しているため、高品質切り花の出荷が強く求められている。しかし、生育開花の促進や切花長の確保のための球根の低温処理については不明な点が多い。そこで、本県に新しく導入されている主要品種について、12～3月出し栽培における球根の低温処理法を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- ① 12～1月出し栽培では「ホワイトドリーム」、「マルタ」及び「アンジェリッケ」とも14℃で1週間球根の予冷処理を行うとよい。本冷処理は2.5℃で6～7週間行くと開花時の切花長が長くなり品質が向上する(表1)。
- ② 2～3月出し栽培では球根の予冷処理は必要ないが、開花期を揃えるためには本冷期間を長くする。晩生種の「アンジェリッケ」及び「マルタ」は2.5℃の7～8週間、中生種の「ガンダースラブソディー」及び「ママサ」は5℃の8週間行う。「インゼル」は、開花時の切花長が短く、2～3月出し栽培には利用できない(表2、表3)。

〔成果の活用面・留意点〕

- ① 県内のチューリップ切り花産地における促成栽培技術として活用する。
- ② 球根は低温処理する前に20℃の温度で乾式貯蔵を行って花芽分化を早める。

[具体的データ]

表1 12~1月出し栽培における開花日と切花長 (平成2年)

予冷 期間 (14℃)	本 冷		ホワイトドリーム		マ ル タ		アンジェリッカ	
	温度	期間	開花日	切花長	開花日	切花長	開花日	切花長
週間	℃	週間	月日	cm	月日	cm	月日	cm
1	2.5	6	12・18	29	12・29	46	1・20	40
		7	12・15	33	12・27	40	1・19	37
		8	12・15	32	12・28	44	1・15	39
	5	6	12・25	23	1・12	42	2・3	38
		7	12・26	19	1・7	44	1・25	38
		8	12・22	27	1・6	44	1・23	37
3	2.5	6	12・22	32	1・7	44	1・20	37
		7	12・25	31	1・7	41	1・21	36
		8	12・26	25	1・10	37	1・23	32
	5	6	12・27	24	1・18	37	2・11	32
		7	12・28	25	1・17	37	2・8	30
		8	1・1	24	1・17	36	2・12	35

注) ①予冷開始: 「ホワイトドリーム」、「マルタ」は8月18日、「アンジェリッカ」は9月1日、温度14℃

表2 2~3月出し栽培における開花日と切花長 (平成3年)

本冷	処理	ガンダース		インゼル		ママサ		マルタ		アンジェリッカ	
		開花日	切花長	開花日	切花長	開花日	切花長	開花日	切花長	開花日	切花長
温度	期間	月日	cm	月日	cm	月日	cm	月日	cm	月日	cm
2.5	6	1・29	41	1・30	32	2・4	43	2・24	42	2・21	45
	7	1・29	43	1・31	32	2・5	42	2・24	45	2・22	49
	8	1・30	48	1・30	30	2・7	45	2・23	44	2・18	47
5	6	2・5	46	2・8	22	2・17	45	3・1	40	3・6	40
	7	2・8	47	2・4	29	2・13	47	2・27	42	3・6	40
	8	2・6	48	2・1	28	2・9	47	2・22	40	2・26	41

注) ①本冷開始: 10月14日

②定植時期: 11月25日から1週間毎

③栽培夜温: 夜間最低13℃

[その他]

研究課題名: 採花時期と予冷処理方法

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成2~4年)

研究担当者: 坂井康弘、小林泰生、谷川孝弘

発表論文等: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部花き花木研究室試験成績書